

県内各地で商店街ツアーが開催！

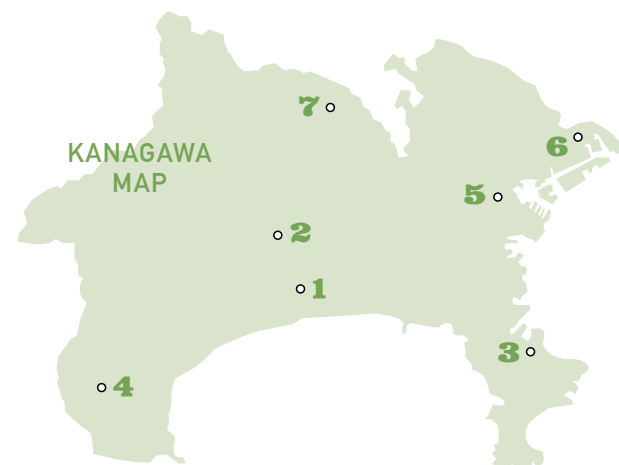
とにかく商店街観光ツアーが盛んな県内の商店街。
ここではほんの一例を紹介する。

’18年1月時点で、かながわ商店街観光ツアー委員
会が企画したツアーの数は50を超える。県内
の商店街を個々にヒアリングし、それぞれの個性
に合ったツアー内容を提案する。商店街の規模に
もよるが、商店街がメインになる場合だけでなく、
観光資源にも同等に重きを置く場合もあり、それ

がツアーにバリエーションをもたらしている。有
名な観光地でなくても、街の歴史や特徴を感じさ
せるちょっとした周辺スポットを合わせることで、
通常の観光旅行とは異なる楽しみ方を提供してい
る。「着地型観光」のひとつの完成形が、この神奈
川県の商店街ツアーと言えるだろう。

Data

期間：’14年～’18年1月
回数：全53回
開催商店街数：45商店街
延べ参加人数：1447人

1 湘南スターモール商店街
(平塚市)

七夕祭りの飾りづくり体験と平塚駅
周辺の商店街を巡るツアー。平塚八
幡宮の参拝や相模湾で捕れる新鮮な
魚介類の昼食も。

2 伊勢原駅前中央商店会
(伊勢原市)

パワースポットとして有名な大山阿
夫利神社・能楽殿の特別見学と伊勢
原駅周辺商店街の個店を巡った。

5 天王町商店街
(横浜市)

フリーマーケットでにぎわう天王町
商店街を訪問。近隣の神社で行われ
る「保土ヶ谷こども歌舞伎」を鑑賞
した。

3 どぶ板通り商店街
(横須賀市)

異国情緒溢れるどぶ板通り商店街の
アメリカンバーをはしごする夜の商
店街ツアー。特製海軍カレー缶詰
「ミリメシ」のプレゼントも。

6 川崎大師仲見世通会
(川崎市)

川崎大師の歴史を学びつつ、付近の
商店会で飴切りなどを体験、江戸時
代の酒合戦を模した「水鳥の祭」も
見学した。

4 箱根宮ノ下商店会
(箱根町)

箱根宮ノ下温泉街の、ガイドブック
に載っていない穴場や個店を巡る。
富士屋ホテルでは昼食と館内見学ツ
アーも。

7 にこにこ星ふちのべ商店会
(相模原市)

近隣の観光資源でもあるJAXAの見学
を行ったほか、大学生ガイドが周辺
の商店街や大学施設を案内。

いま、商店街観光といえば神奈川！

ファンを生むツアーのつくりかた

公益社団法人 商連かながわ／神奈川県



かながわ商店街観光ツアー委
員会が’17年10月に作成した
マニュアル。商店街向けと旅
行事業者向けがある。商連か
ながわHPからダウンロード可

ツアーの魅力について、開始当
初から運営やツアーのサポート
に携わる商連かながわの古性
清乃さんは話す。しかしなぜ、
神奈川県では商店街観光ツア
ーがこれほど活発に行われている
のだろうか。

そもそのきっかけは、黒岩
祐治・神奈川県知事の「多くの
商店街が、さらに個性を発揮し
魅力を高めてもらえるよ
う商店街観光ツアーを実
施していく」という発言
からだ。これを機に、
観光資源の発掘と商店街
の活性化の両立を図る目
的で「かながわ商店街観
光ツアー委員会」が発
足。’14年5月には平塚に
て第1回の商店街観光ツ
アーが開催された。今でこそ「着
地型観光」が普及しているが、
当時は先行事例が少なく、旅行
事業者と連携しながら手探りで
地域の観光地と組み合わせたツ
アーを行っていた。集客数が上
がったのは県の広報紙「かな
がわ県民のたより」への掲載開始から。
「参加者の年齢層を考えると活字
媒体が効果的だった」と古性さ

(↓ | DATA)

神奈川県内の商店街に
支援を行う商連かな
がわ。商店街ツアーの
企画やサポートを始め、
優れた商店街を表彰す
る「かながわ商店街大
賞」の実施やコンサル
タントの派遣など幅広
い支援を行っている。



ん。いざ参加するとその人情味
あふれた内容に魅了され、遠方
からの応募や、リピーターも増
えていったという。また、ツア
ー参加者がプライベートで再訪
することも多くなった。’17年1
月に行われた横浜中央市場通り
商店会でのツアーには、過去最
多の291名もの応募があった
ほど、気運は高まっている。

マニュアルを作成し
商店街の主体性を促す

こうして築き上げたツアーの
ノウハウをどの商店街でも活用

三崎下町商店街ツアーにおじゃましました！

‘18年1月15日、地元神社に少女たちが舞を奉納する旧正月の伝統行事「チャッキラコ」の開催に合わせ、三崎下町商店街ツアーが実施された。ツアー参加者（20名）の中には、この行事を楽しみにしているという人が多かった。その後老舗菓子店店主の話聞きながら菓子作りを体験し、ガイドに導かれて大正～昭和初期の時代を彷彿させる看板建築の残る商店街を歩いた。終了時には「また来たい」と満足げな声があがった。



12:50

和菓子作り体験

三浦商工会議所にて、「和菓子の老舗 嶋清」の6代目ご主人秋本さんが軽快なトークで和菓子作りをレクチャー



10:20

Start!

神事鑑賞

三崎港からほど近い海南神社にて、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている三崎の伝統芸能「チャッキラコ」を鑑賞



13:50

商店街散策

市役所の職員、店主たちからなるボランティアガイドと商店街を散策。映画のロケ地にもなった趣ある風景を楽しんだ



11:40

名店で食事

マグロ料理の名店「庄和丸」で昼食。絶品のマグロ料理を食べながら参加者同士で楽しく交流。こうした食の楽しみも重要



商連かながわの古性さんは商店街観光ツアー開始当初から参画。それぞれの商店街の個性を引き出すスペシャリストだ

できるよう、古性さんは「商店街観光ツアー実践マニュアル」としてまとめあげた。そこには、「商店街関係者や店主による街ガイド」「試食など体験型コンテンツの重要性」「イベントなど特別感の醸成」「観光地とのコラボレーション」など、ツアーを成功に導く重要な要素がわかりやすく記されている。各商店街の事情に添えるよう、チャート式で企画の流れも示されており、汎用性は極めて高い。

また、これとは別に旅行事業者向けのマニュアルも作成。「企画の出しやすさや参加費の抑制、また告知力の観点から、旅行事業者さんとの連携は大切」と古性さん。現在は旅行事業者の企画に商店街散策を組み込む形式が広がっている。

マニュアルには、古性さんの「願い」も込められている。

「現在の商店街観光ツアーは、私たち商連かながわが実質的に運営しているケースが少なくない。ただ、本当は商店街が

主体的にツアーを行い、意識を自ら変えていくことが重要。マニュアルがその一助になれば」

商店街観光ツアーは、外の人には商店街の魅力を気付いてもらうだけでなく、店主たちが自分たちの街の良さを再発見するという効果もある。

マニュアル作成を経て観光ツアーは次のステージを見据える。「観光資源の発掘という課題は解決しつつあるので、次は商業的な成功を目指して、ツアー自体で収益を上げたり、ヒット商品が出るという段階まで持ち込みたい」と古性さん。旅行事業者と連携した商店街ツアーの充実や、外国人旅行者をターゲットにしたものも検討中とのこと。今後もさまざまな企画で商店街の魅力を県内外に伝えていく。

「まち歩き」に使える まとめ。

- ☑ ツアーを通し地域資源を再発見
- ☑ 参加者と地元の人との対話を重視
- ☑ 旅行事業者との連携も一手

11年3月11日、東日本大震災の津波によって甚大な被害を受けた、宮城県南三陸町。苦難を乗り越え、壊滅状態だった複数の商店街から店主たちが集い、新しい商店街をスタートすると、観光客が急増した。そのきっかけのひとつが、被災した町を歩く「復興ツアー」だ。

商店街は復興ツアーの目玉であり終着点

「あそこにかかっている時計、わかりますか？ 2時49分。実は、ここに津波が押し寄せた時刻で止まっているんです」

宮城県南三陸町の旧・戸倉中学校、現・戸倉公民館の前で、復興ツアーに参加した人たちは、語り部である芳賀長恒さんの言葉に耳を傾けていた。

南三陸町観光協会の主催するこの復興ツアーは、震災の年の夏にスタートし、今年で7年目。その主な内容は、語り部がバスに同乗したり一緒に町を歩いたりしながら、津波による浸水エリアを案内し、自らの体験を語るといったもの。ツアーの最後に

立ち寄るのが、南三陸町の復興の象徴とも言われる「南三陸さんさん商店街」だ。

志津川地区に5つあった商店街は、震災による津波の影響で壊滅状態に陥った。ところが、わずか1カ月半後の4月末には、全国の商店街の支援のもと「復興市」を開催。これを原点として、翌年2月にはプレハブを利用した仮設商店街をオープンし、年間20万人以上が訪れるほどの人気に。17年3月には南三陸杉を使った現在の本設商店街が開業、8月末までの半年間の来場者は約51万人にも上る。

商店街が継続しないと町は生き残れない

急ごしらえの仮設商店街に多くの人が集まり、震災から7年が経った今でもにぎわいが衰えないのは、一体なぜだろうか。

理由は3つある。一つ目は、地域や個店の結束の強さだ。地震の直後、南三陸町の防災対策庁舎には大勢の町職員が駆けつけていたが、その後の津波によって多くが還らぬ人となった。町の指揮命令系統が壊滅したた

観光協会とのタッグでツアーを推進

商店街が復興のシンボルに

南三陸さんさん商店街／宮城県南三陸町

